

自己紹介にかえて

佐藤 寧

「4月になったら所員に推薦しようと思っています」と言ってくださった経済学部 の田村教授が、4月早々の学科会議中に具合を悪くされ、聖路加国際病院に救急車で運ばれたとの知らせを聞いたときは仰天しました。今では、順調に回復され、リハビリに専念されておられるようなので胸をなでおろしています。

主の導きとでも言うのでしょうか、田村先生が近所にお住まいであったがゆえに、今の自分があるような気がいたします。50歳を過ぎてから信仰を持ったのですが、「すべての出来事、すべての行為には、定められた時がある」ことを信じ、これからの人生を実り豊かなものにしたいものと思っています。

田村先生が研究所所長として職務に復帰されるまでには、本研究所のために自分に何ができるか考えようと思います。専門が音声学と音韻論を中心とした言語学なので言葉の研究に関心を持っていますが、過去10年以上の中学校英語教科書作りを通して教育にも興味を持っています。特に、教育について言えば、隣人愛の精神がその根底になかったら、大学は知識だけを持った怪物を育てることになる危険性がある。

3月の末、友人がサバティカル

で1年間のイギリス留学をすることになり、旅立った。彼の送別会に出席したが、その席上で私が受洗したことにとっても驚いていた。彼に言わせると、私は絶対に信仰を持たないタイプだと思っていたらしい。そうだったかもしれない。しかし、今は違う。いや、違うように日々努力をする求道者でありたい。

(さとう やすし
所員、文学部教授)